

北
藤
島
常
興

歎
願
書

2955






成候數品ノ内別紙ノ類機摸造ノ法方相
 學度志願ニ而明治五年中洋行仕製造ノ
 法方得業候而工部省中ニ於テ御開業相
 成勉厲仕候處何乎御都合被為在讒ニ壹
 ケ年以内ニ而此業廢止被仰出候然レ共
 私一心不出此外遂ニ相續候事殆四年間是
 テ獨立製造當今迄相續候事也政府ニ
 全僭伸家ノ助カヲ受候ニ依而也
 於テモ此業御官内ニ而御開業御製造被
 為在候ハ々唯々輸入數萬分ノ一モ相減
 以テ皇國ノ一助タラニ事ヲ只管企望

大正十一年四月
 隈侯爵郵寄贈

仕候何卒常興微志御洞察被成下別紙寶
本金年賦御貸下被仰付被下候ハ之一
廉奮發勉厲仕度此段偏奉懇願候常興
誠惶謹言

明治十三年八月

藤島常興 

測器物理摸造資本金歎願書寫

京橋區
八官町七番地寄留常興之方居
山口縣士族
藤島常興
同縣士族
藤島常明

測器修理摸造資本金歎願書

私儀

去ル明治七年歐洲ヨリ帰朝ノ後當今迄
引續キ別紙若干ノ器械私費製造罷在候
處近年各御省ヨリ精巧ノ良器御依頼相
成候得共兼テ製造仕込無之ニ付即日上
納ノ御用品ニ至テハ無據御断申上恐入
奉存候然ル處未明治十三年度ヨリ專ラ
日本製ノ器物ニテ成丈ケ御用矣ニ可相
成由承知仕候就テハ大蔵御省中ニ舶来
購買掛御役所御建設相成候テ皇國ニテ
製造不相成呂ハ同御掛ニ於テ外國ヨリ
御輸入相成候由ヲ夙カニ承リ候間何卒

別紙目錄ノ類品御用ニ相成候ハ々拙技
 適當ノ器物何時ニモ御用矣仕度就テ
 八製造ノ諸器械増補方猶資本金等手薄
 二有金壹万圓并借被仰付候様表懇願
 候衣返納方法ノ儀ハ別紙詳細書ノ通聊
 無相違奉返納候間何卒特別ノ御詮議ヲ
 以願意御採用被成下置候様奉歎願候也

京橋區
 八官町七番地寄留堂明方同居
 山口縣士族

北藤島常興

同縣士族

北藤島常明

明治十三年七月

東京府知事松田道之殿

製造品目錄

- 一陸地測量大小器械、類各種 但附屬品々
- 一航海測量器械各種 但メイル類品々
- 一教育大小物理学器械各種
- 一船用磁石
- 一電器各種
- 一製圖器械各種
- 一縮圖器械
- 一外國尺度各種
- 一綿布卷キ出シ尺

山口縣士族藤島常興當時東京赤坂氷川街
拾六番地ニ寄留ス若年頃ヨリ細密之器
具ヲ製スルヲ好メリ安政三江戸へ下リ
田端後藤一乘ノ門ニ入り家風ノ武器彫
刻ヲ學ヒ歸郷ノ後四年間此業ヲトス
文久元年ニ至リ時世ノ變遷國內火技
ノ術漸ク盛ニ彫刻ノ業將ニ地ニ陷ント
スルノ衰態ニ至ル故ニ断然大小銃砲
鑄鍛實地ノ業ニ轉シ自案ニ製造ス
ルヲ始ント四年然ルニ國內平穩ノ後モ

此業ヲ自カニテ續カンテヲ欲ス又二年アリ
肥前長崎及ヒ佐賀邊ニ遊學シ數月
研窮セシニ此業ノ廣大無邊做力ノ
能ク及フ處ニ非ラサルヲ覺知シ中止
ス爰ニ於テ歎息何ヲカ以テ國功ニ為
サシ焦慮殆ニト半年ヲ經過ス時ニ防
長二州地理測量ノ命アリ臣豊浦郡ノ
部ニ加リ明治元年ヨリ二年ノ秋ニ至リ
精圖スト虫尺圖ニ差ヲ生シテ意十分
セス是レ全ク器械麓製ノ故ナルヲ

推知シ自ラ工夫ヲ廻シ種々製造スト虫
モ人カニシテ更ニ意ノ如クナラス遠
ク洋製ニ及ハサルヲ歎ス因テ製造ノ
器械ヲ得其製法ヲ傳習セニテヲ希望
シ明治五年ノ夏出京シ同年九月工部
勸工寮ニ奉職ス此時自案ノ測器ヲ製
造セリ幸ニ其器澳國博覽會ニ備ル
然而己ナラス臣モ又諸官負ノ隨行ヲ
得茲ニ於テ普ク各國製造スル所ノ器
ヲ歷觀シ竊カニ自得スル所アリ尋テ

佐野常氏公使ノ命ヲ以テ澳國名工「カヲフト」
氏ニ就スルニ至リ臣多年ノ病志ヲ得
此年四晩學ト虽モ自ラ旋盤ヲ踏鞴ヲ
十五年煽キ自ラ鋸ヲ執リ製作ノ妙用ヲ傳習シ
日夜刻苦殆シト寢食ヲ忘ルニ至ル
乃チ數月ヲ出テスニテ測量ノ概略ヲ
聞キ明治六年歸朝シ内務地理寮ニ
轉任ス同寮ニ於テ測器製造ノ一ヲ
建言スルト亟モ採用アラス然ルニ又
工部ニ再任シテ八年五月工學寮ニ於

テ測器ノ製造ヲ蒙リ各種ノ測器理
學器ヲ模造シ漸クニシテ「チヨトリ」トニ
着手シテ不遠實切ヲ奏セント百万
苦心勞カス時ニ十年七月三日測器
廢業ノ命アリ前志又折レントス實
ニ慨嗟ニ堪ヘス然リト亟モ今夫レ空
ク前志ヲ廢スル能ハス依テ縱令忽然
廣大ニ為ス能ハサルモ万分ノ一モ此
業ヲ自カニテ續カント奮然決意シ
工部ニ出願シ測器製造ノ器械ヲ公借

シ以テ當今自宅ニ於テ自力製造ヲ起ス
業上ニ於テ奇法妙術ハ西人は是ヲ秘スル
アリ然ルニ臣自得セリ依テ今ノ測器
理學器ノ類ヲ外國ニ求ル教ヲ減シ且國
ノ技倆ヲ他日歐米諸國ニ一歩ヲ讓ラサ
ルノ地位ニ至ラ使メント日夜苦慮懇歎
ノ至ナリ

測器製作之機械製造入費金并借願書

一度盛器

壹臺 代金千貳百圓

一望遠鏡管引出器

貳臺 同 千八百拾圓

一同断玉摺器

壹式 同 千五百圓

私儀別紙之通年來ノ志願當時私宅ニ於テ測
器製造仕居候得共右三種之器取持不仕故
精巧之良器則「テヨトリ」ト「セキスタント」ナル測器
製造不能候然レモ幾重ニモ良器製造仕
度甚奉恐入候次第ニ御座候得共其入費
前書面之金員御貸渡ニ相成候ハ、難有仕合

奉存候蓋シ返納之儀者月々則器製造益
金之内ヨリ三分ノ一ヲ以テ毎月上納可仕候
萬一壹ケ月ニテモ致不納候節者右器械
御取上相成候テモ決テ否申上間敷候實ニ
多年之病志相貫候様御洞察之上何卒願
之通御採用被成下候様此段奉願上候也

明治十一年七月

藤島常興

東京府知事

楠本正隆殿

記

別紙四個ノ器械製造入費并借願出候處返納
期限并利子ノ儀本久ニ洩候處御尋ニ付左
之通申上候也

一器械落成ノ上活用致シ候年月ヨリ先五ケ年

ニテ元金皆納可仕候

一利子之儀御定之通壹ケ年兩度ニ上納可仕候

右之通ニテ御聞届相成候様仕度此段奉願候也

明治十一年七月

藤島常興

東京府知事楠本正隆殿

